



# 2024日本自動車殿堂 歴史遺産車

日本の自動車の歴史に優れた足跡を残した名車を選定し  
日本自動車殿堂に登録して永く伝承します

Cars that blazed the trail in the history of Japanese automobiles are selected,  
registered at the Hall of Fame and are to be widely conveyed to the next generation.

## トヨタ 2000GT

TOYOTA 2000GT



TOYOTA 2000GT



空力的に優れ、流麗かつ格調高い2ドア2シーターのファストバック型クーペのスタイリングは日本人デザイナーによるもので、わが国初のリトラクタブルヘッドランプも採用されていた。

### トヨタ 2000GT(1967年)主要諸元

全長	4175mm	型式	MF10
全幅	1600mm	エンジン型式	3 M
全高	1160mm	駆動方式	後輪駆動
ホイールベース	2330mm	エンジン	直列6気筒DOHC
トレッド(前)	1300mm	ボア×ストローク	75×75mm
(後)	1300mm	総排気量	1988cc
車両重量	1120kg	圧縮比	8.4
乗車定員	2名	最高出力	150ps/6600rpm
最高速度	220km/h	最大トルク	18.0kg-m/5000rpm
最小回転半径	5.0m	変速機	前進5段/手動
タイヤサイズ	165/HR15	価格	238万円



カムカバーまでも美しくデザインされたトヨタ初のDOHCエンジンは、クラウンのM型6気筒を基にヤマハがチューニングしたもので、抜群の高速耐久性を発揮した。



高速ツーリングに必要な計器類は、全て高級木材製のパネル奥深く、ドライバーの視線に合うよう傾斜させて配置されていた。



低い車高ながらも室内は調整可能なハンドル及びリクライニング付シートにより、人間工学的に最良の操縦性が得られるようにレイアウトされていた。

1960年代後半、徐々にではあるが日本のモーターゼーションも普及し始め、国産車の性能も向上しつつあった。

1964(昭和39)年5月の第2回日本グランプリ(GP)後、トヨタ自動車工業(トヨタ)は自社の技術を世に問うため、高速・高性能・豪華でありながら実用的なグランドツーリングカーの開発を決定した。それがプロジェクトコード「280A」、後のトヨタ2000GTである。すでにその年の12月には計画図や仕様書もほぼ完成していたが、多くの新車開発や生産能力の関係もあり、特に入念なクラフトマンシップを必要とされる少量生産車は社外メーカーに委託する方針も決定されていた。

#### ■ヤマハ発動機との共同開発

トヨタ 2000GTは、ヤマハ発動機(ヤマハ)の協力を得て開発された。オートバイの分野では既に世界的なメーカーとなっていたヤマハは過去にグランドツーリングカー開発を断念した経緯があった。1964年の秋、ヤマハと共同開発の相談が発端となって、グランドツーリングカーを計画していたトヨタと手を組むことになった。1965(昭和40)年9月には両社で技術提携が結ばれた。ヤマハは主にエンジンの高性能化と、ボディ、シャシーの細部設計と車両の生産を担当することになった。

#### ■東京モーターショーでのデビュー

1965(昭和40)年10月の第12回東京モーターショーで参考出品車としてデビューした純白のトヨタ2000GTは、日本人デザイナーの手による流麗なスタイリングをまとっていた。

クラウンのM型エンジンを改造したトヨタ初の高性能DOHCエンジンを搭載、低重心・高剛性の実現のために採用されたX型バックボーンフレーム、4輪ディスクブレーキ等の採用で、その存在感は極めて高く、多くの来場者の注目を集めた。

#### ■試金石の耐久レース、そして国際速度記録への挑戦

翌1966(昭和41)年、5月の第3回日本GPにおける総合3位入賞を皮切りにトヨタ2000GTは6月の鈴鹿1000kmでの総合1、2位を獲得する等、長距離レースを基盤に耐久実績を重ね、10月1日~4日には谷田部で「国際・世界スピード記録」に挑戦。2日目からの台風による大雨の悪天候の中、13の国際記録と3つの世界記録を樹立した。またこの年は世界的に有名なアクション映画『007は二度死ぬ』に、プロトタイプの2台がオープントップに改造されてボンドカーとして使用され、同年のジュネーブショーなどでは高性能と洗練されたスタイルで海外でも高い注目を集めた。耐久試験と熟成を兼ねた長距離レースへのトヨタ2000GTの参戦は、翌1967(昭和42)年4月の富士24時間での1、2位入賞まで続いた。

#### ■日本初の超高性能・超豪華な市販車として

1967年5月16日、日本の自動車ファンの注目と期待を一身に集めてトヨタ2000GTは発売された。ヤマハの楽器造りで培った木工技術による高級木材を使用した質感の高いインストゥルメントパネル、価格は238万円、最高時速は220kmと当時の国産市販車としては国際水準を抜く装備と性能を目指したのである。

トヨタ2000GTは、ほぼ手づくりの少量生産車であったが1970(昭和45)年10月に生産を終了。3年余りの総生産台数は337台(うち輸出は115台)であった。

#### ■国産車のイメージ向上に多大な貢献

ショーカーとしてのデビューから実用的な市販車へと熟成を重ねたトヨタ2000GTは、高性能かつ豪華なグランドツーリングカーであり、当時の我が国の持てる高度な技術力や優れた美的造形感覚を国内外に示した点でも歴史遺産車としてふさわしい車である。

(日本自動車殿堂 研究・選考会議)

写真提供:トヨタ自動車株式会社